

## 第9回 防災カフェを開催しました。



### 災害を生きる力「防災リテラシー」を高めよう

ゲスト：川見 文紀 氏 兪 瑋 氏

(同志社大学 社会学部 社会学科)

日時：2017年2月17日(金) 18:30~20:45

場所：滋賀県危機管理センター1階 エントランスホール

ファシリテータ：立木 茂雄 氏

(同志社大学 社会学部 社会学科 教授)

『防災リテラシー』とは、災害・防災に関する情報を活用する能力のことで、その要素は、災害を理解し、災害に備え、危険を回避する行動ができるの3つだということです。どうすれば、『防災リテラシー』を高めることができるのか？ 最新の調査結果や滋賀県の取り組みである『防災キャンプ』での調査のお話を聴き、みんなで考えました。

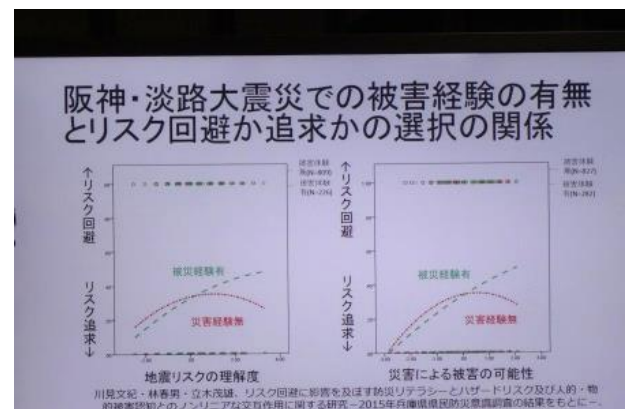


ゲスト：川見 文紀 さん

2015年11~12月に兵庫県で行われた防災意識調査に「自宅の耐震補強を行う場合、工事費用は250万円ですが、地震で損傷しないで済みます。行わなかった場合に地震が起きると50%の確率で損傷し、修繕に500万円かかります。」で耐震補強の意思の強さを問うものがあり、耐震補強しないと答えた人が多かったということでした。このように危険だと理解していても回避しないということがよくあるということで、防災にとっては大きな問題です。

川見さんから、耐震補強でリスクを回避しようとする度合いとリスクへの理解度との関係を、阪神・淡路大震災を経験した人としていない人に分けて調べた結果を紹介してもらいました。

被災経験のある人は、災害への理解度が上



高い防災リテラシーがリスク回避の意思決定を促す

がるほどリスクを回避しようとより強く考えるようになります。経験のない人も災害への理解度が上がるにつれてリスクを回避しようとより強く考えるようになるのですが、理解度が一定以上になると逆に回避しようと考える割合が減っていくことがわかったということでした。

被災経験のある人のような傾向を示す人は、『防災リテラシー』が高い、経験のない人のような傾向を示す人は、『防災リテラシー』が低いということになります。被災経験のない人や『防災リテラシー』が低い人に防災の話をする場合、災害の脅威を強調しすぎると、人によっては逆に対策への意欲を阻害してしまうので、災害時にとるべき行動や効果的な備えを話題にすることが大切だということでした。



ゲスト：兪 瑋 さん

滋賀県の小学生対象の『防災キャンプ』は、災害で学校が避難所になったことを想定し、地域の消防団、自主防災組織、地域のボランティアなどの協力を得て、起震車体験、心肺蘇生訓練、体育館などに段ボール紙で間仕切りを作って家族単位で宿泊するなどを通して、防災について体験的に学ぶような取り組みです。

『防災キャンプ』によって『防災リテラシー』は高まるでしょうか。

平成 28 年度に大津市 2 校、日野町 1 校で行われた『防災キャンプ』の前後での子どもたちの『防災リテラシー』の変化を調査した結果を兪偉さんに紹介してもらいました。

調査は、防災リテラシーの 3 要素、①理解するについて「災害は、私には関係のないことだ」など 9 問、②備えについて「災害が起きたときのために水や食べ物を、家においておきたい」など 12 問、③行動について「災害が起きてもあわてずに行動できる」など 9 問について、それぞれに肯定的、否定的各 2 つの 4 つの選択肢で、『防災キャンプ』の前後に実施して比較した



防災リテラシーを高める防災キャンプ

ということでした。その結果、『防災キャンプ』によって、子どもたちの『防災リテラシー』が高まることがわかりました。

滋賀県の『防災キャンプ』は、子どもの体験活動を支える地域の大人同士のつながりを強め、地域の教育力や防災力を高める効果も期待できるということで、近くで『防災キャンプ』があるときは協力してほしいということでした。

参加者から多くの質問がありました。その一部を紹介します。

問：災害対策をしようと思っても、費用面での問題があるのではないのでしょうか。

答：『防災リテラシー』が高まっても、具体的な行動になるまでに費用の面など別の要素が入ってきます。今日の話は防災対策をしようと思えること、意思決定までを対象にしています。



ファシリテータ：立木 茂雄 さん

問：『防災リテラシー』を高めるためにはどうしたらいいのでしょうか。

答：小さいときに『防災キャンプ』などを通じて『防災リテラシー』を高めてもらうことです。大人の場合は、『防災カフェ』など双方向の対話によって高まると思います。

問：『防災キャンプ』に参加した人がよかったと思ったことはどんなことですか？



ファシリテータに参加者からの質問や意見をまとめていただきました。

答：キャンプ後の感想に、地域の人と触れ合いながら学習することで、災害時に一緒に行動できるようになるというものがありました。また、地域で昔起こった災害の話を知るのも有意義です。さらに子どもたちが体験を家庭で話をする事で保護者の防災意識が高まることも期待できます。

川見さん、兪さん、立木さん、参加者のみなさん、ありがとうございました。